

斜里J.C

[北海道]

道東の “お荷物J.C”から 人材の宝庫へ

斜里町は世界自然遺産・知床の町として世界に承認されました。しかし大企業ホクレン精糖工場誘致に成功した創立当初を過ぎて間もない頃、道東の“お荷物”とまで酷評されたJ.Cでした。

斜里町にJ.Cがあつて良かったと言われたいとの願いを目標に奮起した1970年、日本青年会議所広報特別賞の栄に輝いたのを契機として日本J.C・北海道地区・道東ブロックなどのJ.C要職の歴任者を数多く輩出して、本年創立53年目を迎えます。

この間、現役・シニアを含めて日本や地域を代表する政治家・経済人を数多く送り出しています。J.C学校で「良く学び よく遊んだ」成果



ねぶた

は半世紀を超えて着実に根を下ろしています。J.Cという団体が半世紀を超える地域社会はどうなるのか、日本の青年会議所活動にとつて、まさに斜里J.Cは人材育成のモデルとして



斜里新年交例会

「秀逸なJ.C」であることに自信と誇りを持っています。平成16年発行の斜里町史Ⅲには、社会奉仕団体として業績が評価され紹介されています。今日まさにJ.Cがあつて良かったとの評価を受けている事は戦後の斜里町史に残る社会活動団体の白眉と言えます。斜里J.Cの歴史は1955年7月5日、網走J.Cのスポンサーシップを受けて全国75番目の青年会議所としてその歴史を歩みはじめました。以来既に半世紀を超えました。登録シニア会員は120名余を数え現役会員数を遙かに超えた人的資源として益々なくてはならない団体となっています。



斜里新年若い我ら

との懇親、7月ねぶた運行への参加など積極的に活動しております。非連続の連続、斜里J.C二世が町を動かす時代となり、二世理事長も多く登場し、企業理解も深いものとなっております。まちづくりは人材づくり、我が町の歴史を振り返り、明日のビジョンを描く事がJ.C世代には特に必要であると感じています。「その人材なくして地域の発展はない」といった先達の言葉がさらに重く感じられる時代になりました。シニアは地域の現役です。斜里J.Cシニアクラブは世代を超えて地域を見つめています。

斜里J.Cシニアクラブ会長

浦田初雄

日本J.Cシニア・クラブ

北海道地区代表世話人 中村嘉成